

令和 3年度

事務事業評価表 ( 令和 2年度 の実績評価)

記入年月日  
令和 3 年 4 月 16 日

事務事業名		国指定史跡真壁城跡保存整備事業				事業区分		担当	
						新規/継続	継続	事務事業No.	020501000896
						単独/補助	補助	所属課	090701
政策体系	総合計画の施策名	0205 文化財の保存活用						課長名	文化財課
	政策名	02 生きがいを育む学びのまちづくり						グループ	文化財G
	施策名	05 文化財の保存活用						担当者名	
	手段名	01 ①文化財の保存							
財務会計上の位置付け						事業期間			
予算科目	会計	款	項	目	事業細	一般会計			
	01	10	05	07	01 00	史跡等保存整備事業			
法令根拠	文化財保護法、史跡真壁城跡整備検討委員会設置要項								
【Do】 1. 事務事業の現状把握 (その1)									

手 段	①事務事業の概要 (事務事業の全体像)					②担当者が行う業務の内容・やり方・手順				
	<p>国指定史跡真壁城跡の保存整備及び活用を目的とした事業。          ○事業は、発掘調査、発掘調査報告書作成、保存整備工事が主。          ○事業計画は、史跡真壁城跡整備検討委員会にて年4回程度協議決定。          ○発掘は、外曲輪 (外周部) 完了。中城を発掘中。          ○保存整備工事は、中城対象。整備基本設計 (H27) による発掘成果に基づき、保護盛土、遺構表示、園路舗装、植栽等を施工する。          ○公開活用は、発掘、工事成果を公開活用する。          ◎現況：中城庭園等発掘に注力。工事は発掘完了後、設計施工計画。          ◎事業費          ・史跡等保存整備事業 国庫補助金 (対象経費の1/2) 及び市費          ・活用事業 予算なし</p>					<p>①史跡真壁城跡整備検討委員会を開催し、決定事項にしたがって発掘調査、保存整備工事を実施する。          ②事業はH27年度史跡真壁城跡整備基本設計に基づく内容。          発掘調査：中城中央部発掘調査。庭園跡等          保存整備工事：中城の復元工事。発掘完了箇所から実施。          活用：発掘調査現地説明会、歴史講座、企画展示、各種団体研修会、発掘体験、職場体験等</p>				

②事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移										
①手段 (担当者の活動内容)		④活動指標 (活動量を表す指標)			単位	01年度 (実績)	02年度 (実績)	03年度 (計画)	04年度 (目標)	05年度 (目標)
○整備事業 史跡真壁城跡整備検討委員会を開催し、決定事項にしたがって発掘調査及び保存整備工事を実施。 ○公開活用事業 整備事業成果の公開活用。		発掘調査面積			㎡	600.00	600.00	600.00	600.00	600.00
		保存整備面積			㎡	3,110.00	700.00	0.00	0.00	0.00
		展示・歴史講座の回数			回	2.00	3.00	3.00	4.00	4.00
		展示・歴史講座の参加人数			人	250.00	500.00	500.00	500.00	500.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)		⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)			単位	01年度 (実績)	02年度 (実績)	03年度 (計画)	04年度 (目標)	05年度 (目標)
整備事業：史跡真壁城跡 公開活用事業：市民、観光客、児童・生徒、研究者		真壁城跡面積			㎡	125,251.00	125,251.00	125,251.00	125,251.00	125,251.00
		桜川市の人口			人	39,692.00	38,905.00	38,118.00	37,331.00	36,544.00
						0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)		⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)			単位	01年度 (実績)	02年度 (実績)	03年度 (計画)	04年度 (目標)	05年度 (目標)
整備事業では発掘と復元工事で歴史的価値を高めながら保護を図り、公開・活用で資源価値を高める。 市の観光や生活インフラの魅力を向上させる。		発掘調査完了面積			㎡	33,973.00	34,573.00	35,173.00	35,773.00	36,373.00
		保存整備完了面積			㎡	39,568.00	40,254.00	40,254.00	40,254.00	40,254.00
		参加人数の前年度比較 (増減)			人	-1,130.00	250.00	0.00	0.00	0.00

③ 投入量 (事業費) の推移					01年度 (実績)	02年度 (実績)	03年度 (計画)	期間限定 総投入量
投 入 量	事業費	財 源 内 訳	国庫支出金	千円	55,732	9,361	10,626	0
			県支出金	千円	0	0	0	0
			地方債	千円	0	0	0	0
			使用料・手数料	千円	0	0	0	0
			その他	千円	0	0	0	0
			一般財源	千円	61,197	15,834	20,046	0
	事業費計 (A)	千円	116,929	25,195	30,672	0		
	正規職員従事人数	人	3.00人	3.00人	3.00人			

02年度事業費 実績 (千円)				03年度事業費 予算 (千円)			
01 報酬	9,457	15 原材料費	78	01 報酬	14,925	17 備品購入費	145
03 職員手当等	1,525			03 職員手当等	2,749		
04 共済費	21			04 共済費	55		
07 報償費	306			07 報償費	230		
08 旅費	393			08 旅費	760		
10 需用費	1,149			10 需用費	1,336		
11 役務費	11			11 役務費	20		
12 委託料	5,687			12 委託料	9,737		
13 使用料及び賃借料	364			13 使用料及び賃借料	611		
14 工事請負費	6,204	合 計	25,195	15 原材料費	104	合 計	30,672

事務事業名	国指定史跡真壁城跡保存整備事業	事務事業No.	20501000896	所属課	文化財課
(4) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？					
平成6年国指定。平成9年度から国庫補助、県費補助、市費で開始。発掘・整備工事は、外曲輪完了。、中城と二の丸の一部で発掘を進めた。中城庭園規模が広大で時間と費用がかかっている。公開活用は説明会、歴史講座、展示等で広報に注力した結果、市民参加者が増加。					
(5) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？					
歴史公園として公開・活用を望む。真壁城核として、真壁伝承館、町並み、古道など周辺文化財を含む歴史講座や活用イベントの要望がある。イノシシ対策では、防護柵設置やハーブ植栽が関心を持たれている。					

【See】 2. 評価の部 \*原則は事前評価。

評価項目	
改革改善を行う	① 政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 真壁城跡の保護と活用に繋がり、桜川市の魅力を高める。
	② 公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？) (法定受託事業はその名称)
	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 国指定の市有財産であり、歴史景観を復元して資産価値を高め、活用する必要がある。
有効性	③ 成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある 発掘、報告書、整備工事の他所例を参考に、発掘や工事の手法を多様な視点から検討し、効率化と成果向上をはかる。最新の城郭研究をもとに、未整備地と関連文化財の公開活用をはかり、真壁城跡全体の資産価値を向上させる。
	④ 廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？)
<input checked="" type="checkbox"/> 影響有 公開・活用ができなくなり城跡の価値が生かせなくなる。	
効率性	⑤ 類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか？(市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) <input type="checkbox"/> 具体的な手段、事務事業名
	<input checked="" type="checkbox"/> 余地がない 類似事業は無い
	⑥ 事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？)
<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 発掘中の中城庭園跡は全国的にも稀な年代、規模、内容で、当面削減余地なし。	
公平性	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 市の財産である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性 (次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																								
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	平成27年度策定の整備基本設計をもとに発掘調査と整備工事を進めた。発掘調査は庭園の解明は完了していないが、新規箇所調査は令和3年度完了。以後は補足調査数年の計画。整備工事は、令和2年度南西ゾーン第2工区の植栽工(ハーブ)。令和3年以降の工事は未定だが、発掘完了後の設計施工の見込み。																								
③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																									
⇒																										
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																								
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止		(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																								
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策		<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">×</td> </tr> </table>				コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下			×
		コスト																								
		削減	維持	増加																						
成果	向上		○																							
	維持			×																						
	低下			×																						
<ul style="list-style-type: none"> <li>現場作業と事務作業の業務分担を明確にして、業務に集中し、時短と費用効率化。</li> <li>工程管理と業務必要性等を定期的に見直し、待機期間や作業の無駄をなくす。</li> <li>発掘と発掘報告書作成業務は、最も時間を要する業務で、改善余地が大きい。</li> </ul> <p>現状は担当者と一般市民臨時職員の直営作業が多く、担当者は考古学専門業務の人材育成、全作業成果点検管理、労務管理など、業務量が膨大で、業務やり直しなどの無駄も発生した。そのため、委託余地がある専門業務は、委託業務に切り替えて、時短・効率化を進めている。今後も委託余地を見直し、工程や費用削減などを改善する。具体的作業は出土遺物実測図化、報告書作成、発掘測量・写真図化等である。</p>		(6) 事務事業優先度評価結果																								
		成果優先度評価結果 <input type="checkbox"/> ①																								

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input checked="" type="checkbox"/> B A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止 B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>